



学校だより

川越市立山田中学校

令和4年7月6日 発行

学校教育目標『人を尊び 本気で学び たくましく』

～ふるさと川越山田に自信と誇りを持てる生徒の育成～

山田中の文化とは

校長 守岡 信一

みなさんも、朝読書で、いろいろな本を読んでいることと思います。私は、少し古い本ですが先日、ある本を読み終えました。その本のタイトルは「その1秒をけずりだせ」です。この本を書いたのは、東洋大学の陸上競技部の長距離部門の監督の酒井俊幸（さかいとしゆき）さんです。みなさんの中にも、お正月の2日と3日に行われる箱根駅伝を好きな人がいると思います。私もその一人です。

東洋大学は、箱根駅伝に80回も出場し、総合優勝4回、往路優勝7回、復路優勝3回のとても強い学校です。川越にも校舎があるので知っている人もいないのでしょうか。以前にも読んだことがあるこの本を、あらためて読み返してみました。講演会でお聞きした話の内容を含め、少しですが紹介をします。

陸上部の朝練習の開始時間は5時だそうです。夏には4時30分から30キロ走をすることもあるそうです。寮で生活をしている選手たちは、練習場から離れたキャンパスで授業を受けています。「文武両道」、つまり勉強とスポーツの両立がモットーなので、授業に遅れず、しかも、十分な練習をするために、その朝は、とても早いのです。寮の生活では一人一役で、仕事が割り振られているそうです。色々な係があり、少し小学校や中学校のクラスと似ていると思います。割り振られた役割や仕事をどのように行うかで、その選手のことをよく分かるのだそうです。

また、「礼を正し、場を清め、時を守る」ということで、清掃にも、とても力を入れています。寮の清掃が行き届いていて、整理整頓ができていのかは駅伝のチーム力に比例し、チームの雰囲気は清掃に表れるという考えです。当たり前のことですが、手を抜けば、すぐに部屋は汚れ、物は散らかります。やるべきことがしっかりとできているかは、清掃を見れば一目瞭然です。

試合となれば数十キロも走りますので、必ず苦しい場面があります。しかし、苦しい時こそ、怖がらず、ためらわず、前に出る走りを意識するそうです。「怯（ひる）まず前へ」「その一秒をけずりだせ」が部のスローガンです。部の伝統、文化と言ってもよいかもしれません。

山田中ではどうでしょうか。例えば、ラジオ体操や朝読書、仲のよさなどは、よい伝統、文化だと思います。新入生が入り、集団のメンバーが替わりますが、毎年、先輩から後輩へと引き継いでくれています。よい伝統はその集団の雰囲気や行動そのものに大きく影響を与えます。集団における文化は、それぞれの学年、学級、部活動の中にも育ちます。一学期は残り二週間です。一学期の成果で二学期にさらに大きく育てたいものは何ですか。また、今のうちに修正しておきたいことはありますか。みなさん一人一人の可能性がさらに大きく花開くことを心から期待しています。